

音楽芸能スタッフ科 PAコース  
1年次 受講科目一覧

文化・教養専門課程（文化・教養分野）

1 単位時間 45分

授業科目		年間授業 時間数	週授業 時間数	単位数
講義	一般教養 I	74	2	4
講義	音楽史 I	74	2	4
講義	電気・舞台知識 I	74	2	4
講義	PC知識 I	74	2	4
講義	コンサートスタッフ知識 I	74	2	4
実習	分野別実習 I	74	2	2
実習	サウンドアナライズ I	74	2	2
実習	イクイップメント I	74	2	2
演習	スタッフワーク I	148	4	8
実習	PA I	148	4	4
合計		888	24	38

# 専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	一般教養 I		授業形態 / 必選	講義	必修
	学則別表上表記	一般教養 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PAコース/レコーディングコース/照明コース/ローディーコース/企画制作コース/マネージャーコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当 <input type="checkbox"/>	非該当 <input checked="" type="checkbox"/>	
担当講師 実務経歴					
<b>授業概要</b>					
<p>①企業に就職するために必要な知識とスキルを身に付けるための授業を行う。</p> <p>②人として信頼されるための第一印象の重要性、ビジネスマナー(マナーの5原則・敬語・電話対応など)、履歴書の作成方法、面接対策。</p> <p>③卒業後の自分を見据えるためのキャリアビジョンを設定し、実現に向けて何が必要かを考えていく。</p>					
<b>到達目標</b>					
<p>・社会人になるための心構え、教養、作法を身に付け将来の自分、自分の目標を明確にし、その目標に向かってのプランニングをできるようにする。</p> <p>・身だしなみ、挨拶の仕方や正しい敬語の使い方など社会人として必要な一般常識、並びに名刺交換の作法、電話対応、ビジネスメールなどビジネスマナーの応用知識を身につける。</p> <p>・就職活動における履歴書及びエントリーシートの完成度を高めるとともに面接対策なども実施する。</p>					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	・自分の第一印象は？、信頼印象力 ・キャリアビジョン(目標設定)
【前期】 5～8回目	・マナーとは？、マナーの5原則 ・就活の身だしなみ
【前期】 9～12回目	・敬語とは？(尊敬語、丁寧語、謙譲語、クッション言葉、間違えやすい敬語) ・敬語を使った自己紹介文作成
【前期】 13～16回目	・電話対応。(かけ方、受け方、取り次ぎ方) ・就活についての基本事項、企業研究
【前期】 17～19回目	■前期試験:試験時間内に穴埋め問題を行い、授業内容の理解度を試験の得点で判断する。 自分の第一印象・キャリアビジョンについての自分の考えをまとめたものを記述する。
【後期】 20～23回目	・キャリアビジョン(自己分析) ・自己PR、志望動機作成
【後期】 24～27回目	・履歴書作成 ・エントリーシート作成
【後期】 28～31回目	・一般常識、SPI対策
【後期】 32～35回目	・面接対策
【後期】 36～37回目	■後期試験:試験時間内に穴埋め問題を行い、授業内容の理解度を試験の得点で判断する。 自己PRをまとめたものを記述する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点/意欲/理解」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	自分の第一印象について知ること、自分の長所をどのように活かし、短所をどのように変えていけばよいのかについて考え、自己成長につなげて行く。更に、キャリアビジョンについて考えることで自分の目標設定ができ、これからの学内での2年間をどのように過ごすのか、どういう姿勢で授業に取り組むのかを考えることができる。
備考	特になし。

# 専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	音楽史 I		授業形態 / 必選	講義	必修
	学則別表上表記	音楽史 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PAコース/レコーディングコース/照明コース/ローディーコース/企画制作コース/マネージャーコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	自身のバンドで上京、翌年にはビクターエンタテインメントよりメジャーデビューを果たす。シングル・マキシシングル・アルバム等、計7枚を発表。テレビ・ラジオを始め、各種イベント等多数出演。また、近年では福岡ナンバーショット、中洲ジャズやサツマニアンヘスなどにも舞台監督や現地楽器スタッフとして従事。上記の経験を活かしポピュラーミュージックの歴史についての講義を行う。				
<b>授業概要</b>					
<p>①ジャズやブルースの時代まで遡り、1950年代のエルヴィス・プレスリーや1960年代のビートルズなど、その時代を象徴するアーティストを時代背景と並行して学ぶ。</p> <p>②現代のポピュラーミュージックに至るまでの流行や低迷の歴史、並びに変遷を学び一つの事柄(ジャンルや、アーティスト、楽曲等)に対して深く掘り下げ、他との関連性を調べる習慣を身に付け、「知る」という行為、「探究心」を育てる。</p>					
<b>到達目標</b>					
<p>・音楽史を学ぶ事により、数々のジャンルや時代背景についての理解を深め、それぞれの現場において、演者が目指すであろう音楽像を、様々な音楽ジャンルの中より察知し、具体的な提案や、技術提供を通して、音作りや演出等に活かせるよう感性を磨き、担当するアーティストの活動がより良いものとなるよう常に研究・模索する人物であること。</p> <p>・音楽業界人の一般教養として、あるいは、音楽についての会話を通じて、円滑なコミュニケーションを図る一つのツールとなる様、その知識を活用できる人物になること。</p>					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	ジャズ、ブルースの誕生と時代背景の講義。
【前期】 5～7回目	1950年代のロックンロールの誕生などアメリカにおける流行音楽の講義。
【前期】 8～11回目	1960年代のビートルズの登場などイギリスにおける流行音楽の講義。
【前期】 12～14回目	1970年代以降、多様化するロックのジャンルの概要についての講義。
【前期】 15～18回目	■前期試験:前期の授業範囲内で筆記試験を実施。前期授業の理解度を問う。
【後期】 19～21回目	ハードロックの流行や多数の派生ジャンルの登場などの講義。
【後期】 22～24回目	1980年代のメタルやポップスの流行、MTVの登場などの講義。
【後期】 25～27回目	1990年代の様々な流行音楽の講義。
【後期】 28～30回目	その他、様々なジャンルについての講義。
【後期】 31～37回目	■後期試験:後期の授業範囲内で筆記試験を実施。後期授業の理解度を問う。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点/意欲/理解」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	音楽業界に関わる人として、音楽の歴史を知ることとはとても重要なことのひとつです。 授業を通して学んだことは、音作りや演出などに直接反映され、将来の仕事に繋げることができます。
備考	授業毎に講師作成の資料を配布。

# 専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	PC知識 I		授業形態 / 必選	講義	必修
	学則別表上表記	PC知識 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PAコース/レコーディングコース/照明コース/ローディーコース/企画制作コース/マネージャーコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	一般業務におけるビジネススキルを企業を始め、西日本新聞TNC文化サークル・JEUIGIAにてビジネスマナー講師として従事。人間心理学を交えたコーチングを行うコーチでもある。 上記の経験を活かし、ティーチングだけでなくコーチングスキルを交え「考える力」を育成する講義を行う。				
<b>授業概要</b>					
パソコンは、生活を便利にするツールとして今日、あらゆるシーンで利用されている。スマートフォン・タブレット全盛の時代だが、ビジネスの世界では業界問わずパソコンを使いこなすことができることが必須項目である。この講義では、パソコンの各部名称といった最も基本的な項目からスタートし、音楽業界だけでなく、現在のビジネスで標準的に利用されているMicrosoft Office(Word/Excel/PowerPoint)ソフトウェアの概要と基本的な使い方を学ぶ。					
<b>到達目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・Word(文書作成)、Excel(表計算)、PowerPoint(プレゼンテーション)といったそれぞれの特性を理解し、与えられた文書と同様の文書を作成できることを目標とする。</li> <li>・就職後、ビジネス文書はこれらのソフトウェアのいずれかで作成されていることがほとんどです。したがって、この講義をマスターすることは組織から必要とされる人材の基本的な職務遂行能力の獲得に直結している。</li> </ul>					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	Microsoft Office概要、パソコン操作の基本。
【前期】 5～8回目	Microsoft Excelの基本①(ファイルの作成、保存、簡単な計算など)
【前期】 9～12回目	Microsoft Excelの基本②(簡単な関数、罫線など)、Wordの基本(ファイルの作成・保存)
【前期】 13～16回目	Microsoft Wordの基本③(各種機能の紹介、簡単な文書作成など)
【前期】 17～19回目	■前期試験:Officeソフトウェアの機能や部位の意味・名称に関するペーパーテストおよび与えられた指示通りのExcel/Wordファイルが作成できるかどうかを問う。
【後期】 20～23回目	Microsoft Wordの基本④(レイアウト要素の確認)
【後期】 24～27回目	Microsoft PowerPointの基本①(ファイルの作成、保存、簡単なプレゼンテーションなど)
【後期】 28～31回目	Microsoft PowerPointの基本②(プレゼンテーションについて)
【後期】 32～35回目	Excel/Word/PowerPointの適切な用途について総復習。
【後期】 36～37回目	■後期試験:実技試験のみ(Word/Excel/PowerPoint) 与えられた指示通りのExcel/Word/PowerPointファイルが作成できるかどうかを問う。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点/意欲/理解/PC操作」の4項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	Word/Excel/PowerPointは、業界を問わず世界中のビジネスで標準的に使われているOfficeソフトウェアです。この講義を受講することで、仕事をする上で欠かせないコンピュータによる文書作成ノウハウを身につけることができます。
備考	特になし。

## 専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	電気・舞台知識 I		授業形態 / 必選	講義	必修
	学則別表上表記	電気・舞台知識 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PAコース/レコーディングコース/照明コース/ローディーコース/企画制作コース/マネージャーコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	福岡で照明家として活動中。近年では、Tリーグ開幕シリーズ/ファイナルシリーズの照明デザインオペレート、福岡発アイドルグループ「LinQ」の専属照明オペレーターや、福岡よしもと新劇場における照明プランニング及び照明オペレート/音響オペレート/舞台監督を担当。 上記の経験を活かし電気と舞台全般における講義を行う。				
授業概要					
①演劇、音楽、舞踊、演芸、伝統芸能など舞台業界裏方として会館、公共文化施設、ホール、演芸場、ライブハウス等への出入りの際最低限の電気に関する知識の習得、劇場、ホール等の舞台機構や公演製作等の基礎知識を学び舞台技術基礎を取り入れる事により現場でのコミュニケーションを円滑にし、優れた創造性の基盤をつくりあげる。					
到達目標					
・様々な音響照明舞台現場に於ける一般常識やエンターテインメント業界の裏側の一般的な知識を身に付け校外現場にも対応可能にし社会人として業界人として活躍出来るよう学習する。					
・実際に民間劇場での実習を行い様々な用語舞台設備等の確認、現場にて劇場等での電気に対する理解を深める。					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	電気・電流についての講義① ・電気と？
【前期】 5～8回目	電気・電流についての講義② ・感電の恐怖及び対策。
【前期】 9～12回目	電気・電流についての講義③ ・電気極性について。
【前期】 13～16回目	電気・電流についての講義④ ・電流について。
【前期】 17～19回目	■前期試験：前期講義での知識習得確認の為、穴埋め及び記述式の筆記試験で合否を決める。
【後期】 20～23回目	劇場舞台についての講義① ・劇場舞台での電源の取り方。
【後期】 24～27回目	劇場舞台についての講義② ・劇場舞台照明電源について。
【後期】 28～31回目	劇場舞台についての講義③ ・劇場舞台に必要な電気知識。
【後期】 32～35回目	劇場舞台についての講義④ ・舞台全般電気知識を極める。
【後期】 36～37回目	■後期試験：後期講義での知識習得確認の為、穴埋め及び記述式の筆記試験で合否を決める。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 / 意欲 / 理解」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	舞台裏側の業界は仕事上電気を扱う事は必須です。近年電気事故による大怪我も少なくありません。自分自身の身を守る事にもつながる電気知識の学習にしっかりと励んで下さい。劇場での業務にも支障が出ないように舞台知識も必要な科目です。劇場内の機構やシステムを知り尽くして卒業して頂ければ現場での即戦力に繋がります。
備考	舞台技術の共通基礎

# 専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	音響知識 I		授業形態 / 必選	講義	選択
	学則別表上表記	コンサートスタッフ知識 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PAコース/レコーディングコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	福岡のライブハウスで長年、PA、アーティストブッキングや施設管理業務を担当。自身のライブハウスを問わず、様々な会場やアーティストのコンサートにおいてPAエンジニアとして従事。また、自身がギターを担当しているバンドでは福岡を中心に積極的に活動中。 上記の経験を活かし音響知識に関する講義を行う。				
授業概要					
<p>①音と電気の関係性にふれ、実用性について学ぶ。 ②授業内でマイクを使った、セッティング、録音(楽器・声)を行い、実践的な技術及び、応用技術を習得する。</p>					
到達目標					
<p>・音響に関する基本用語をはじめ、舞台の構造、音の性質や特性などの音に関する基礎知識を習得する。 ・スピーカー、ダイナミックマイクやミキシングコンソールなどの各機材の役割や正しい取り扱い方法及び安全に関する知識を身につけ、安全かつ正しい取り扱いを学び習得する。 ・最終的には、総合的に音響のシステム構造を理解する事を到達目標としている。</p>					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	音響の基礎用語。音の性質。
【前期】 5～8回目	電気基礎: 電圧・電流・抵抗・電力について。
【前期】 9～12回目	電気基礎: 並列・直列など、回路と分流について、ケーブルの種類、特性に関して。
【前期】 13～16回目	デシベルと音圧について。電圧比およびdb計算について。
【前期】 17～19回目	■前期試験: 前期授業内容より抜粋して筆記試験を行う。
【後期】 20～23回目	マイクの仕組みについて、ダイナミックマイクについて。
【後期】 24～27回目	コンデンサーマイクについて、ミキシングコンソールについて。
【後期】 28～31回目	パワーアンプ・スピーカーやイコライザーなど各種エフェクターについて。
【後期】 32～35回目	ブロックダイアグラムについて①、ブロックダイアグラムについて②
【後期】 36～37回目	■後期試験: 後期授業内容より抜粋して筆記試験を行う。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点/意欲/理解/機材操作」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	音響機材全般に関して、専門的知識を知識を習得します。機材の特徴を知ることによって、様々なシチュエーションでそのシチュエーションに適した機材のセッティングができるようになります。
使用教科書	授業毎に講師作成の資料を配布。

# 専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	サウンドアナライズ I		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	サウンドアナライズ I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PAコース/レコーディングコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	福岡のライブハウスで長年、PA、アーティストブッキングや施設管理業務を担当。自身のライブハウスを問わず、様々な会場やアーティストのコンサートにおいてPAエンジニアとして従事。また、自身がギターを担当しているバンドでは福岡を中心に積極的に活動中。 上記の経験を活かし楽曲や音の分析に関する実技指導を行う。				
<b>授業概要</b>					
<p>①クラシック、ジャズ、ブルース、ロックやポップスなど幅広いジャンルの曲を分析し、サウンドにおける特徴を学びます。</p> <p>②使用されている楽器や機材、バランスや定位、イコライジングや各種エフェクト効果などについて分析し、楽曲の制作過程における手法及び技術を学びます。</p> <p>③楽器の特性を理解し、シチュエーションによって使い分けられる音の違いを分析できるようになる。</p>					
<b>到達目標</b>					
<p>・それぞれの音の性質や特徴を理解することができる。</p> <p>・ジャンルやシチュエーションによって使い分けられる音のEQ処理技術を身につけることができる。</p>					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	授業概要と年間スケジュールの説明。歌声に関する分析、解説。
【前期】 5～8回目	アコースティックギターに関する音の分析、解説。
【前期】 9～12回目	エレキギターに関する音の分析、解説。エレキリック。
【前期】 13～16回目	ベースギターに関する音の分析、解説。
【前期】 17～19回目	■前期試験:前期授業内容より抜粋して試験を行う。
【後期】 20～23回目	ドラムに関する音の分析、解説。
【後期】 24～27回目	ドラムに関する音の分析、解説。
【後期】 28～31回目	鍵盤楽器に関する音の分析、解説。
【後期】 32～35回目	その他の楽器に関する音の解説。
【後期】 36～37回目	■後期試験:後期授業内容より抜粋して試験を行う。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 /意欲 /理解」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	歌声や楽器の特性を理解することで、シチュエーションに適した音作りをすることができるようになります。
使用教科書	授業毎に講師作成の資料を配布。

# 専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	音響システム I		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	イクイップメント I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PAコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	福岡のライブハウスで長年、PA、アーティストブッキングや施設管理業務を担当。自身のライブハウスを問わず、様々な会場やアーティストのコンサートにおいてPAエンジニアとして従事。また、自身がギターを担当しているバンドでは福岡を中心に積極的に活動中。 上記の経験を活かし音響システムに関する講義を行う。				
授業概要					
<p>①アナログの音響卓の操作。 ②ミキシングコンソールやスピーカーをはじめ、その他周辺機器の知識/取り扱いを学び、音響システムの仕組みを理解する。</p>					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> <li>音響のシステムを学び、色々な視点から仕組みを理解していきます。実際に音響機材に触れ、構造や用途・特徴などを学ぶ。</li> <li>実技授業や実際の現場の際に、的確なセッティング・状況に応じた機材選びやマイキングなどがスムーズに行うことができるよう学ぶ。</li> <li>様々な機材との組み合わせや、毎回違う現場に対応できるよう機材の特性・しくみを理解する。</li> </ul>					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	マイク・D.I・スピーカーなどを分解し、構造・性質・特性を学ぶ。
【前期】 5～8回目	ギターアンプ・ドラムセットなどのマイキングをより細かく学び、状況に応じたセッティングを学ぶ。
【前期】 9～12回目	的確なチューニング・レベルの取り方を学ぶ。
【前期】 13～16回目	ワイヤレスマイク・ワイヤレスイヤモニの周波数帯域を理解し状況に合わせたプランを学ぶ。
【前期】 17～19回目	■前期試験:前期授業内容より抜粋して試験を行う。
【後期】 20～23回目	前期おさらい～PA周りの電源・楽器周りの電源について学ぶ。
【後期】 24～27回目	小型スピーカー～大規模スピーカーの構造・設置方法・状況などを理解する。
【後期】 28～31回目	後期LIVE WEEKに向けてのプランニング①
【後期】 32～35回目	後期LIVE WEEKに向けてのプランニング②
【後期】 36～37回目	■後期試験:後期授業内容より抜粋して試験を行う。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点/意欲/技術力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	定番のアナログミキシング・コンソールから、世界的に有名なアーティストのツアーなどでも使用されている最新のデジタルミキシング・コンソールの基本的なオペレート技術を習得していきます。ハウスオペレーターとしてだけでなく、モニターオペレーターとしてモニターミキサーのオペレートやステージマンとしてステージ周辺の機材セッティングも学びます。
備考	適時プリント資料配布。



# 専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	スタッフワーク I		授業形態 / 必選	演習	選択
	学則別表上表記	スタッフワーク I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	74回(148単位時間)	年間単位数	8単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PAコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	ライブホールのサウンドエンジニアとして20年以上従事後、現在はフリーランスとしてライブ、フェスや講演会など年間100本以上のPA業務に携わる。 上記の経験を活かしPAにおける仕込みからバラシまでの実技指導を行う。				
<b>授業概要</b>					
<p>①音響、照明、ローディー、イベント制作、のスタッフと連携し仕込みから本番までを想定した流れの中で、ステージセッティング、サウンドチェック、リハーサル、本番や撤収などのPAスタッフとして必要な実技能力を養う。</p> <p>②現場で想定されるトラブル対応なども実践する事で、臨機応変に対応できる能力と経験を身につける。</p>					
<b>到達目標</b>					
<p>・授業を通じてイベントや野外フェスなどの概要を深く理解し、仕込みから本番までの動きを習得する。</p> <p>・スタッフ同士の連携や、他のセクションの動きなどコミュニケーションや、アーティストとの信頼関係を築き、円滑に作業ができるように各セクションの専門的技術及び知識を身につける。</p>					

授業計画・内容	
【前期】 1～8回目	音楽スタッフとは？音楽スタッフの現状、舞台用語、楽器名称などの基礎知識、楽器の音だし、組立方の基礎。
【前期】 9～16回目	楽器などの立ち位置、ローディー、照明、舞台制作とのコミュニケーションなど。
【前期】 17～24回目	4バンド程度の転換実習、バミリ、電源の取り方、PAオペレートなど。
【前期】 25～32回目	LIVEWEEKに向けての各セクションとの打合せ、STAGE PLOTの読み方、作成、転換実習、音出し。
【前期】 33～37回目	■前期試験:実技試験及び前期の授業範囲内で筆記試験を実施。前期授業の理解度を問う。
【後期】 38～45回目	前期試験の復習、2バンドのPAオペレート。
【後期】 46～53回目	キーボードのセッティングと音だし。音作り。
【後期】 54～61回目	実際にトラブルを起こし、対処する。(機材トラブル等)
【後期】 62～69回目	4バンド、ダンスやパフォーマーなどがあるフェスの想定のもとにセット図作成、見方、PAオペレート、撤収作業など。
【後期】 70～74回目	■後期試験:実技試験及び後期の授業範囲内で筆記試験を実施。後期授業の理解度を問う。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点/意欲/技術力/コミュニケーション力」の4項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	他のスタッフと連携し仕込みから本番までを想定した流れの中で、搬入、ステージセッティング、オペレートや撤収などの音楽スタッフとして必要な実技能力を養います。また、現場で想定されるトラブル対応なども実践する事で、臨機応変に対応できる能力と経験を身につけます。
備考	適時プリント資料配布。

## 専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	PAオペレート I		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	PA I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	74回(148単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PAコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	ライブホールのサウンドエンジニアとして20年以上従事の後、現在はフリーランスとしてライブ、フェスや講演会など年間100本以上のPA業務に携わる。 上記の経験を活かしPAオペレーションを中心とした実技指導を行う。				
<b>授業概要</b>					
①アナログの音響卓の操作。 ②ゲインの取り方、イコライジングの考え方及び操作。 ③メインスピーカー、モニタースピーカーの設置及びチューニング。					
<b>到達目標</b>					
・音響に関する基本用語をはじめ、舞台の構造、音の性質や特性などの音に関する基礎知識を習得する。 ・スピーカー、パワーアンプやミキシングコンソールなどの各機材の役割や正しい取り扱い方法及び安全に関する知識を身につけ、安全かつ正しい取り扱いを学び習得する。 ・総合的に音響のシステム構造を理解する事で、オペレート技術の向上及びPAスタッフとして自覚の目覚めをを目標とする。					

授業計画・内容	
【前期】 1～8回目	8の字巻、マイクスタンドの立て方、スピーカースタンドの立て方。 音響卓のゲインのとり方、イコライジングの仕方。(考え方) PAスピーカーの組み方、音響卓～アンプ～スピーカーのつなぎ方及びGEQチューニング。
【前期】 9～16回目	バンドセットの実習を意識したマイキング、メインスピーカー(モニタースピーカー)のチューニング。 ダンスボーカル系のワイヤレスマイクの設置、メインスピーカー(モニタースピーカー)の設置及びチューニング。 ドラム周りのマイクのチョイス及びマイキング。
【前期】 17～24回目	PRE/POSTの説明、使い分けの考え方。 マルチボックス(16ch,32ch)マルチケーブルを用いてのINPUT/OUTPUTの接続。 バンドセットのライブ実習での実務経験。
【前期】 25～32回目	バンドセットのライブ実習での実務経験。 イベント時のPAセッティングの設置及びチューニング。 様々なPA機会でのスピーカー、マイクのチョイス。
【前期】 33～37回目	モニタースピーカー4系統によるバンドセットのライブ実習。 前期試験準備。 ■前期試験:実技試験及び前期の授業範囲内で筆記試験を実施。前期授業の理解度を問う。
【後期】 38～45回目	モニター卓の仕込み方の説明及び設置～チューニング。(ハウリングチェック) 分岐にて仕込み～実務経験。 デジタル音響卓の説明①(ゲイン、EQ等)
【後期】 46～53回目	デジタル音響卓の説明②(ダイナミクス等) デジタル音響卓を用いての仕込み～音出し。 デジタル音響卓を用いてのライブ実習。
【後期】 54～61回目	デジタル音響卓の説明③～⑥(AUX、MATRIX等) バンドセットのPA業務。(デジタル卓) これまでの復習。
【後期】 62～69回目	デジタル音響卓の質疑応答。 ライブ実習。(デジタル音響卓) これまでの復習。
【後期】 70～74回目	調整日。(まだ理解できていない事柄について説明) ■後期試験:実技試験及び後期の授業範囲内で筆記試験を実施。後期授業の理解度を問う。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 / 意欲 / 技術力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	アナログの音響卓で基礎をしっかり学習していただきます。後期からはデジタルの音響卓を用いての授業が増えますが、アナログで培ったノウハウを生かして2年に進級しましょう。何事にも好奇心を持って臨んでください。
使用教科書	適時プリント資料配布。